

---

# 高齢者・介護保険に関する ニーズ調査報告書

(第6期 日常生活圏域ニーズ調査報告書)

**【概要版】**

---

平成 26 年 8 月

富良野市

# 目次

|                               |           |
|-------------------------------|-----------|
| <b>第1章 調査の概要</b>              | <b>1</b>  |
| 1. 調査の概要.....                 | 2         |
| 2. 調査票の回収結果.....              | 2         |
| 3. 集計結果の表し方.....              | 2         |
| <b>第2章 回答者の基本情報</b>           | <b>3</b>  |
| 1. 回答者の属性について.....            | 4         |
| 2. ご家族や生活状況について.....          | 6         |
| <b>第3章 生活機能評価の分析</b>          | <b>9</b>  |
| 1. 基本チェックリストによる評価.....        | 10        |
| 2. 手段的日常生活動作（IADL）による評価.....  | 17        |
| 3. 日常生活動作（ADL）による自立度評価.....   | 17        |
| 4. 知的能動性による評価.....            | 18        |
| 5. 社会的役割による評価.....            | 18        |
| 6. 老研指標総合評価.....              | 19        |
| <b>第4章 市独自設問の集計結果</b>         | <b>20</b> |
| 1. 介護サービスの満足度について[認定者のみ]..... | 21        |
| 2. 地域包括支援センターについて.....        | 27        |
| 3. 認知症ケアについて.....             | 29        |
| 4. 今後の生活と高齢福祉について.....        | 31        |

---

## 第1章 調査の概要

---

## 1. 調査の概要

本調査は、平成 27 年度を初年度とする『富良野市高齢者保健福祉計画及び第 6 期介護保険事業計画』を策定するために必要な基礎資料の収集を目的に実施したものです。

|      |  |
|------|--|
| 調査対象 | 平成 25 年 10 月 1 日現在、市内に在住する 65 歳以上の一般高齢者及び要支援 1～要介護 5 認定者のうち在宅サービス利用者 1,500 人 |
| 抽出方法 | 住民基本台帳及び要介護認定者台帳から無作為抽出  |
| 調査期間 | 平成 26 年 5 月 29 日～平成 26 年 6 月 13 日  |
| 調査方法 | 自己記入方式<br>郵送による調査票の配布・回収   |

## 2. 調査票の回収結果

|           |       |       |
|-----------|-------|-------|
| 調査票の配布数   | 1,500 | —     |
| 調査票の回収数   | 975   | 65.0% |
| 集計対象      | 975   | 65.0% |
| 集計対象外（白票） | 0     | 0.0%  |

## 3. 集計結果の表し方

- 調査結果の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- 百分比による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を 100%として算出し、本文および図の数字に関しては、すべて小数点第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位までを表記しています。複数回答の設問では、すべての比率の合計が 100%を超えることがあります。
- クロス集計（介護度別の集計など）の図については、分析軸の項目の後に（n=XX）として、各項目の回答者数を表記しています。
- クロス集計の分析軸となる項目に「無回答」がある場合は表示していません。よって、「全体」の数値と各項目の和が一致しない場合があります。

---

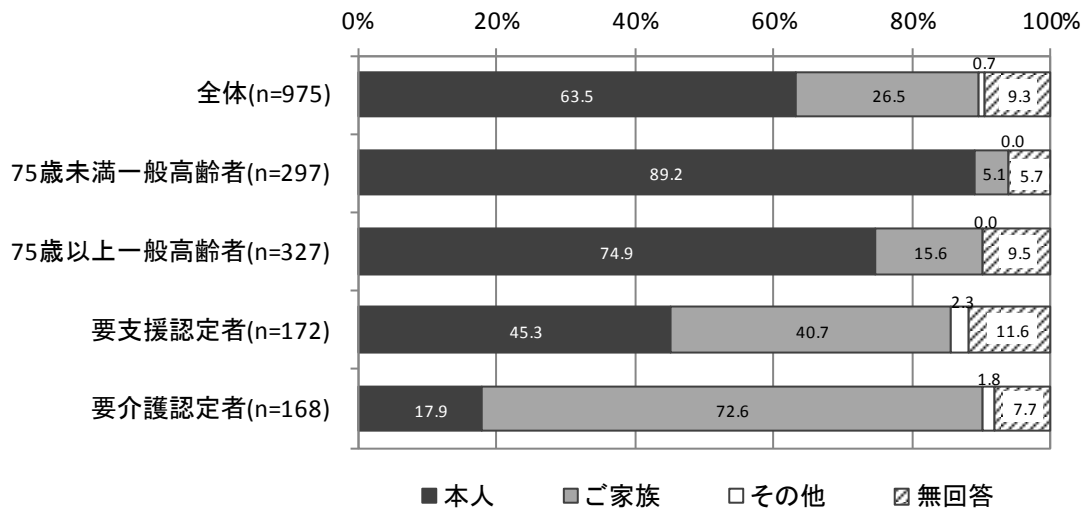
## 第2章 回答者の基本情報

---

# 1. 回答者の属性について

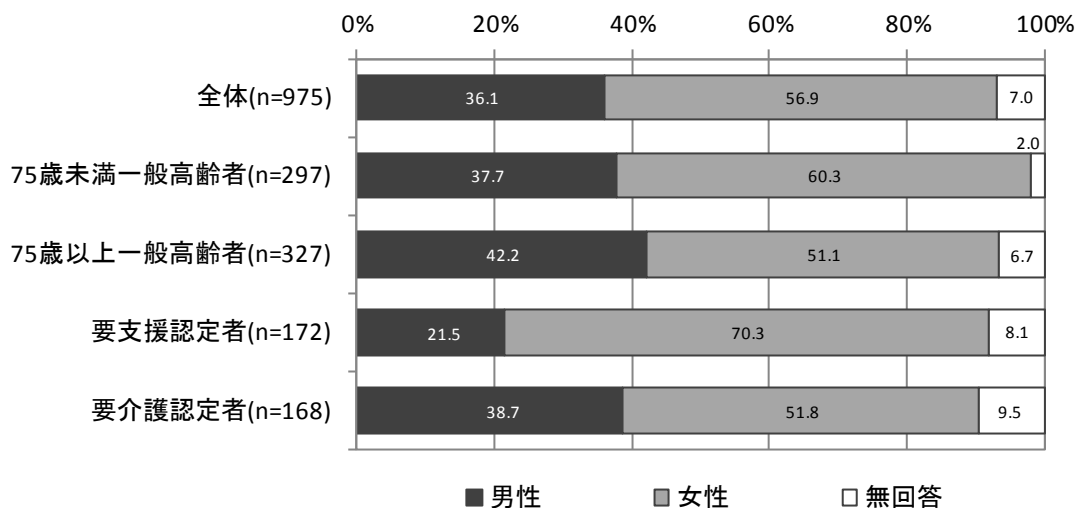
## (1) 調査票の記入者

75歳未満の一般高齢者のほぼ9割は「本人」が回答しています。要介護認定者では「ご家族」の回答が高く72.6%という状況です。



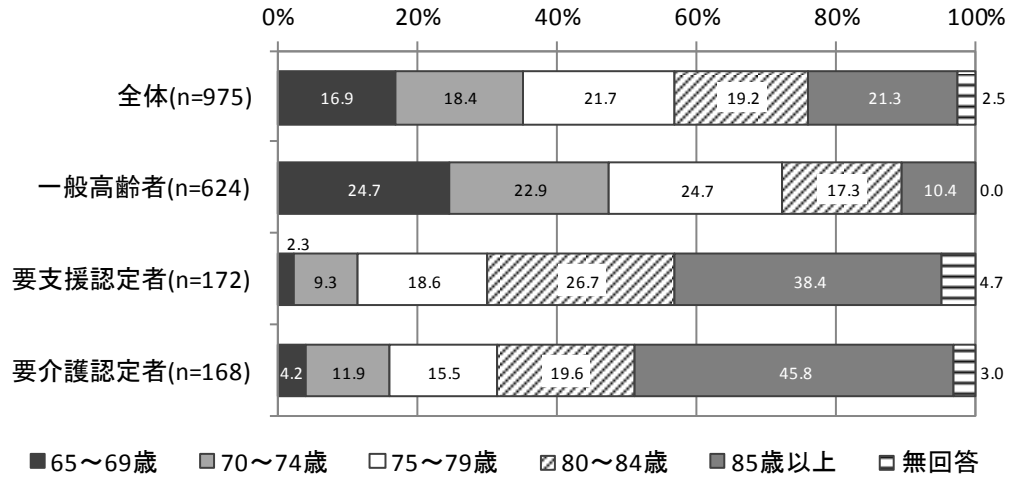
## (2) ご本人の性別

全体では、「男性」が36.1%、「女性」が56.9%となっています。特に要支援認定者では、「女性」の割合が高く、約7割となっています。



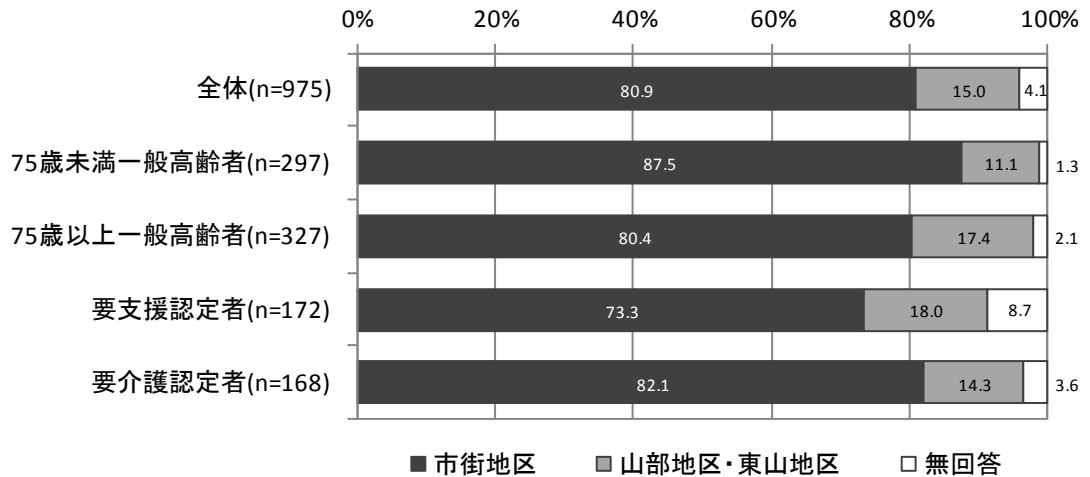
### (3)ご本人の年齢

全体と比べて、一般高齢者は「85歳以上」(10.4%)が少なくなっていますが、要支援認定者は38.4%、要介護認定者は45.8%となっています。



### (4)ご本人のお住まい

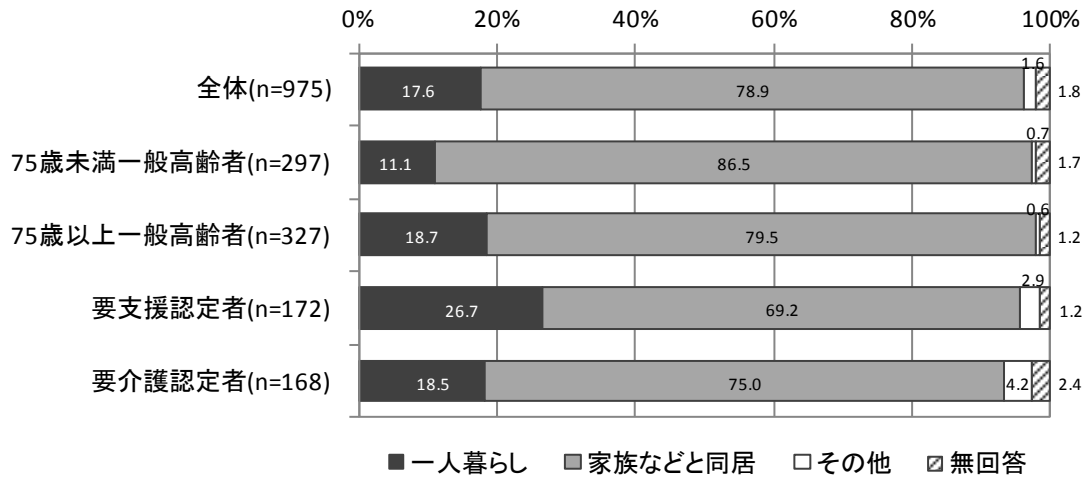
全体では、「市街地区」が8割前後、「山部地区・東山地区」が2割弱となっています。



## 2. ご家族や生活状況について

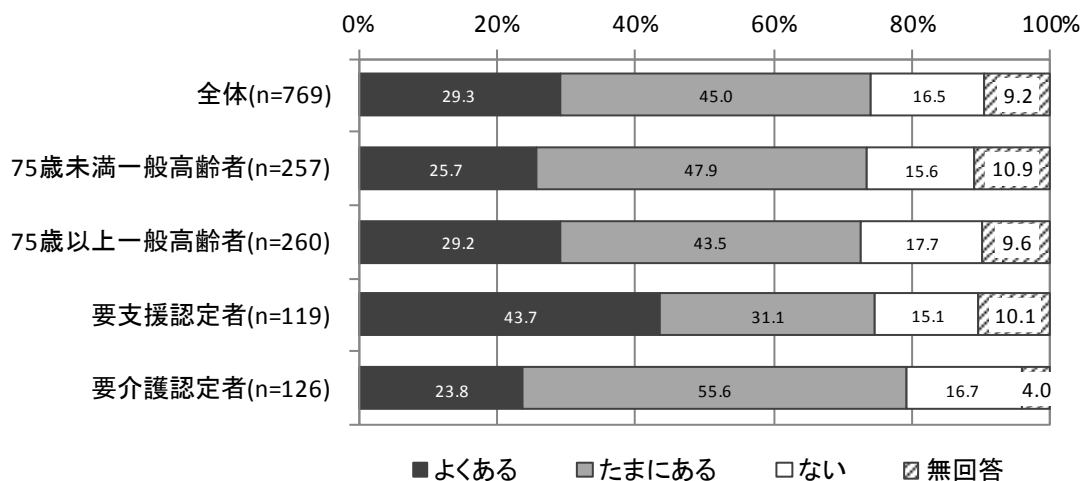
### A-問 1. 家族構成をお教えてください。(1つに○)

全体では、「家族など同居」が8割弱（78.9%）を占めていますが、要支援認定者では「一人暮らし」が26.7%となっており、一般高齢者や要介護認定者と比べて多い状況です。



### A-問 1-2. (家族など同居されている方のみ)日中、一人になることがありますか

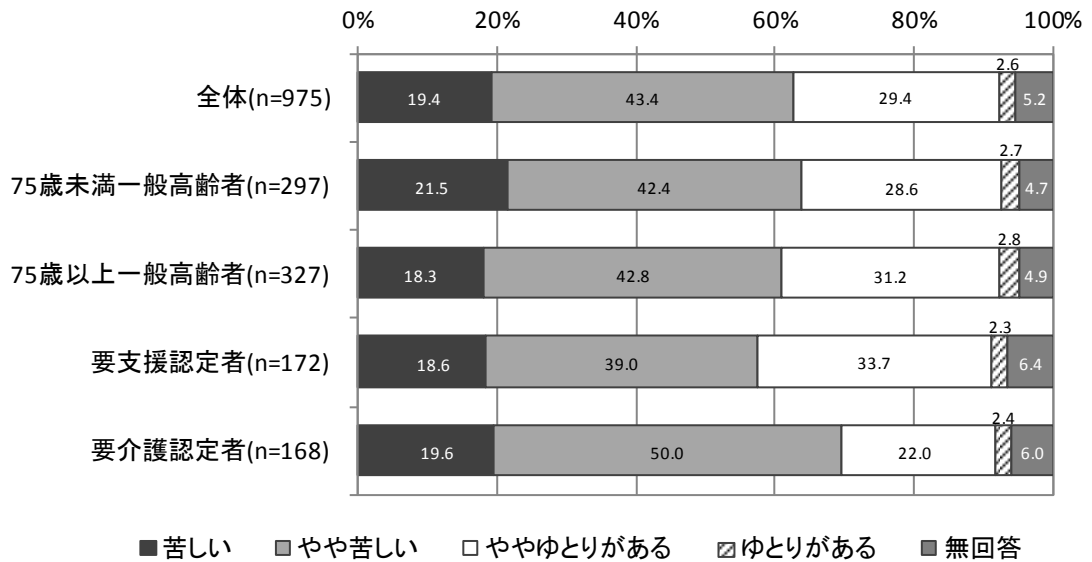
家族など同居している769人のうち、日中、一人になることが「よくある」は、要支援認定者が43.7%と多くなっています。「よくある」と「たまにある」を合わせた場合、家族と同居していても、日中一人になることが“ある”人は要介護認定の取得に関係なく7~8割という状況です。





### A-問4. 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

現在の暮らしの経済的状況は、「苦しい」が2割前後、「やや苦しい」を合わせると約6～7割が経済的に苦しい状況です。特に、要介護認定者は約7割が「苦しい」、「やや苦しい」と回答しています。



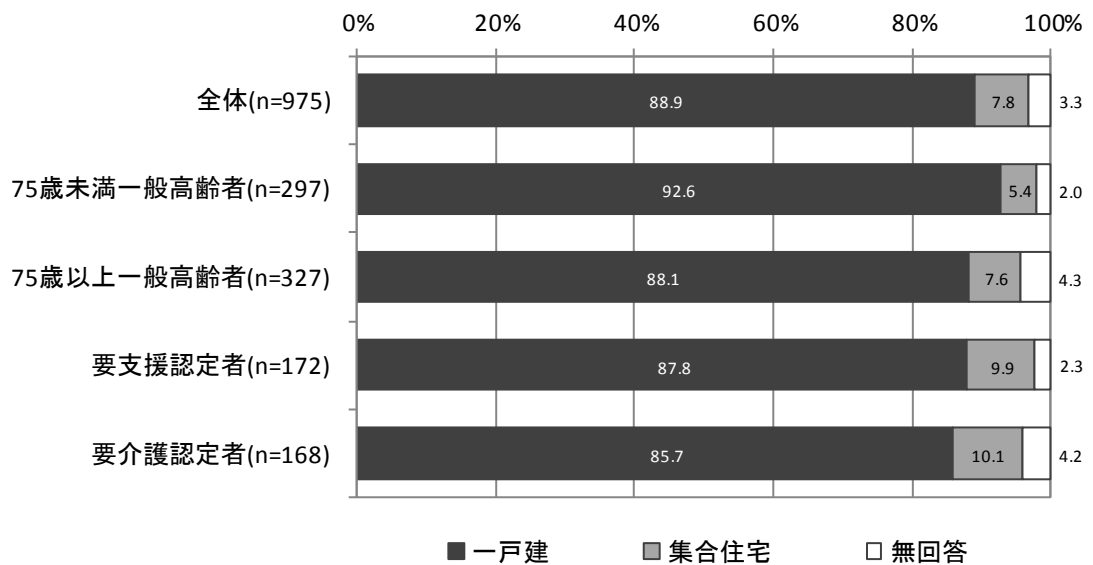
**A-問5. お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか**

**A-問6. お住まいは、次のどれにあたりますか**

住まいは、全体・各属性に関わらず9割前後が「一戸建て」となっており、「集合住宅」に住んでいる方は1割前後となっています。

住まいの種類は、「持家」が8~9割を占めており、「民間賃貸住宅」、「公営賃貸住宅」など「持家」以外は1割前後の状況です。

《住まいは一戸建か集合住宅か》



《住まいの種類》

(単位：%)

|                    | 持家   | 民間賃貸住宅 | 公営賃貸住宅 | 借間  | その他 | 無回答 |
|--------------------|------|--------|--------|-----|-----|-----|
| 全体 (n=975)         | 85.1 | 4.0    | 5.2    | 1.4 | 1.8 | 2.4 |
| 75歳未満一般高齢者 (n=297) | 90.2 | 3.7    | 3.0    | 1.3 | 0.7 | 1.0 |
| 75歳以上一般高齢者 (n=327) | 84.7 | 5.2    | 6.1    | 1.5 | 0.3 | 2.1 |
| 要支援認定者 (n=172)     | 83.1 | 1.7    | 5.2    | 1.7 | 2.9 | 5.2 |
| 要介護認定者 (n=168)     | 80.4 | 4.2    | 6.5    | 1.2 | 6.0 | 1.8 |

※網掛け部は各属性ごとに最も割合が高い箇所

---

## 第3章 生活機能評価の分析

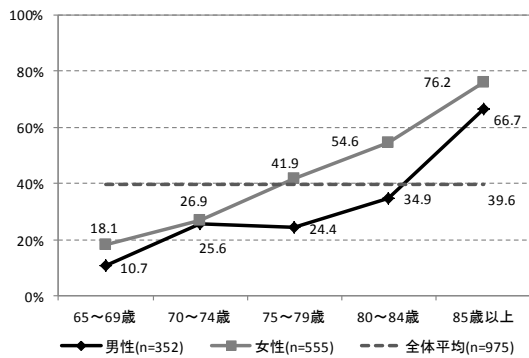
---

# 1. 基本チェックリストによる評価

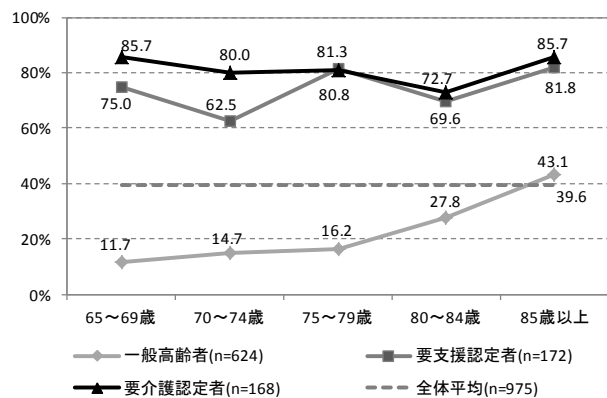
## (1) 運動

運動の評価結果をみると、全体で 39.6%が該当者となっており、概ね男性よりも女性の該当者の割合が高くなっています。また、要支援認定者と要介護認定者の該当者の割合が高く、一般高齢者との差が大きい評価項目となっています。

《運動の該当者割合（性・年齢階級別）》



《運動の該当者割合（認定状況・年齢階級別）》

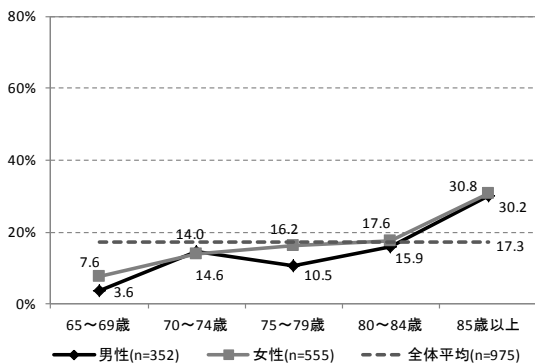


## (2) 閉じこもり

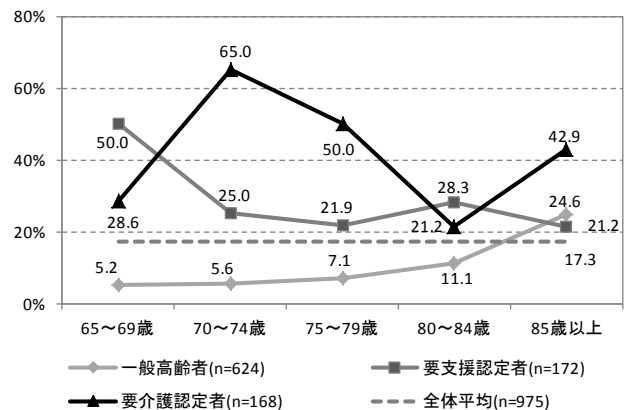
閉じこもりの評価結果をみると、全体で 17.3%が該当者となっており、男性と女性の間で大きな差はみられません。一般高齢者は年齢とともに該当者の割合が高くなる傾向がありますが、要支援認定者と要介護認定者は年齢との相関はみられません。

要支援認定者は、65~69歳の該当者割合が 50.0%と多く、要介護認定者は、70~79歳および 85歳以上で該当者が4割以上となっています。

《閉じこもりの該当者割合（性・年齢階級別）》



《閉じこもりの該当者割合（認定状況・年齢階級別）》

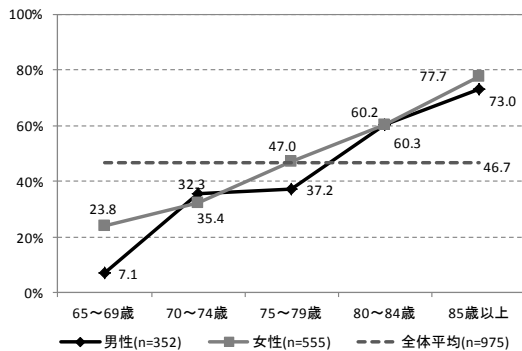


### (3) 転倒

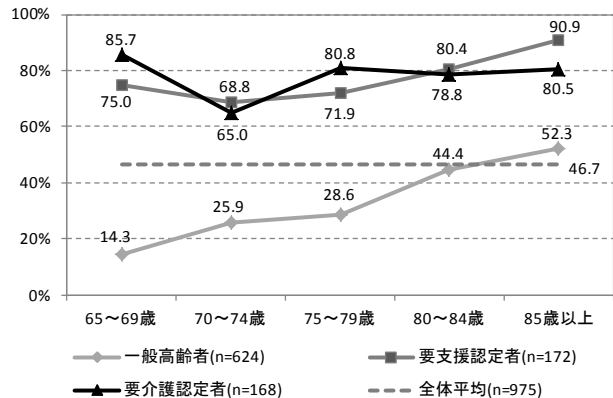
転倒の評価結果をみると、全体で46.7%が該当者となっており、概ね男性よりも女性の該当者の割合が高くなっています。男性、女性ともに年齢とともに該当者の割合が高くなる傾向があります。

要支援認定者と要介護認定者は年齢階級に関わらず、該当者の割合が高い項目となっており、一般高齢者との間で大きな差がみられます。

《転倒の該当者割合（性・年齢階級別）》



《転倒の該当者割合（認定状況・年齢階級別）》

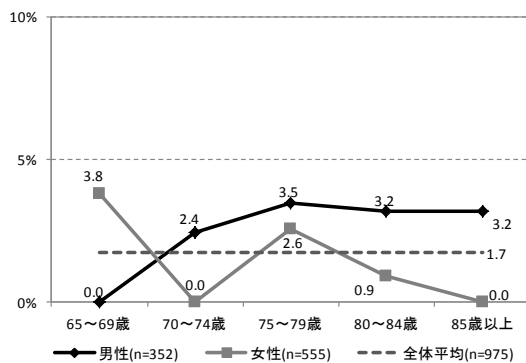


### (4) 栄養

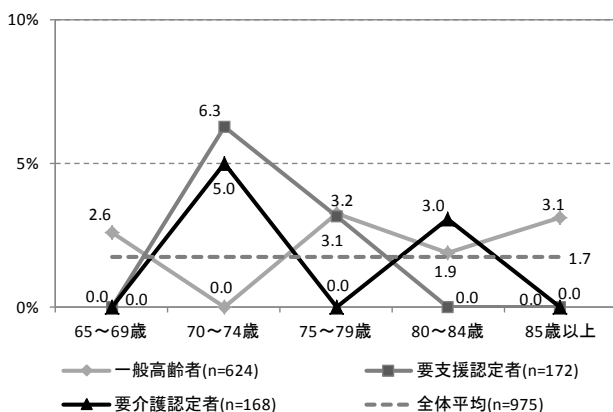
栄養の評価結果をみると、全体で該当者が1.7%となっており、他の指標と比べて該当者割合が低い状況です。男性は、70歳以上で該当者の割合が高くなり、女性は65~69歳で該当者の割合が高くなっています。

一般高齢者と要支援・要介護認定者の間で明確な差はみられませんが、70~74歳では、一般高齢者(0.0%)に対して、要支援認定者(6.3%)、要介護認定者(5.0%)で相対的に差が大きくなっています。

《栄養の該当者割合（性・年齢階級別）》



《栄養の該当者割合（認定状況・年齢階級別）》

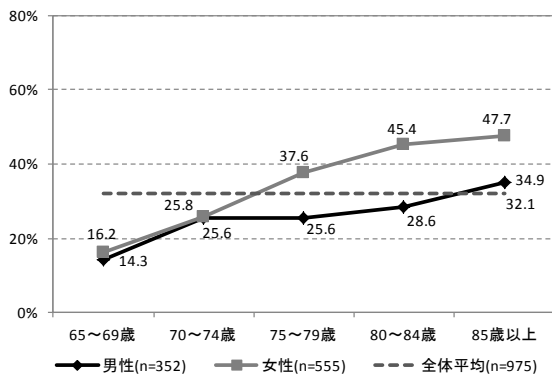


## (5) 口腔

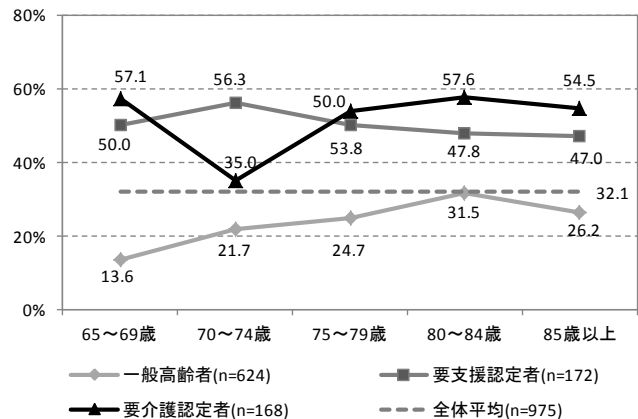
口腔の評価結果は、全体で32.1%が該当者となっており、概ね男性よりも女性の該当者の割合が高くなっています。男性、女性ともに年齢とともに該当者の割合が高くなる傾向があります。

要支援認定者と要介護認定者の間では、概ね要介護認定者の方が該当者の割合が高くなっていますが、70～74歳では要支援認定者の方が該当者の割合が高くなっています。

《口腔の該当者割合（性・年齢階級別）》



《口腔の該当者割合（認定状況・年齢階級別）》

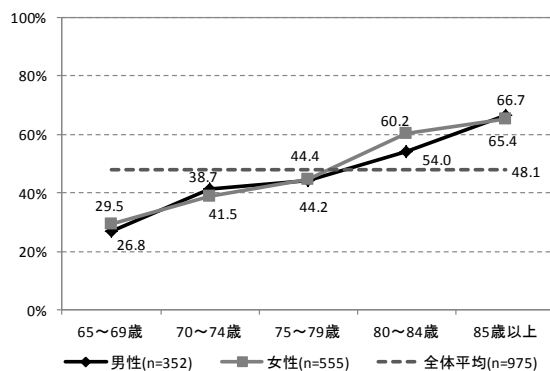


## (6) 認知症予防

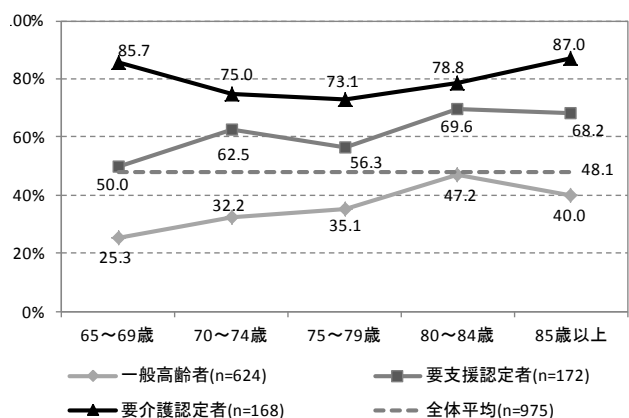
認知症予防の評価結果は、全体で48.1%が該当者となっています。男性と女性はほぼ同じ傾向を示し、年齢とともに該当者の割合が高くなっています。

認定状況でみると、要介護認定者、要支援認定者、一般高齢者の順で該当者の割合が高くなっています。

《認知症予防の該当者割合（性・年齢階級別）》



《認知症予防の該当者割合（認定状況・年齢階級別）》

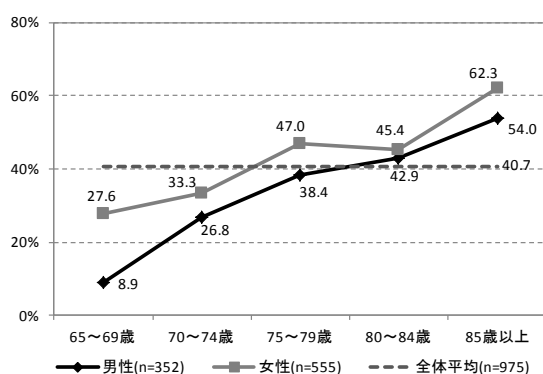


## (7)うつ予防

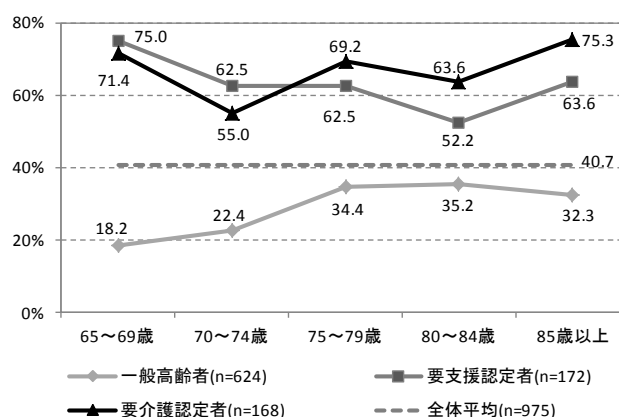
うつ予防の評価結果は、全体で40.7%が該当者となっており、男性よりも女性の該当者の割合が高く、概ね男女ともに年齢が上がるにつれて該当者が増える傾向にあります。

認定状況での比較では、75歳未満では要支援認定者が、75歳以上では要介護認定者の該当者割合が高くなっています。

《うつ予防の該当者割合（性・年齢階級別）》



《うつ予防の該当者割合（認定状況・年齢階級別）》

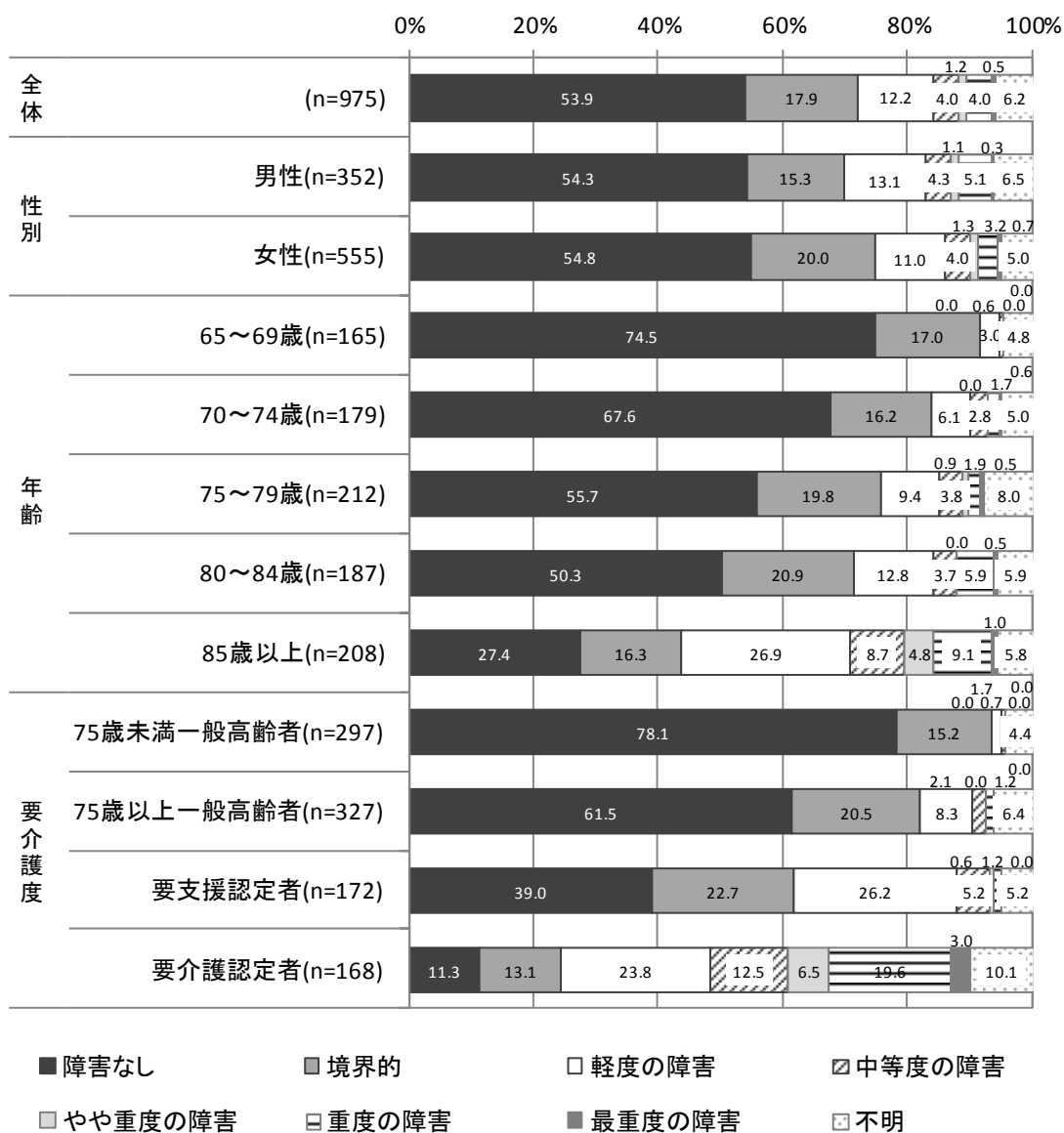


## (8)認知機能障害程度

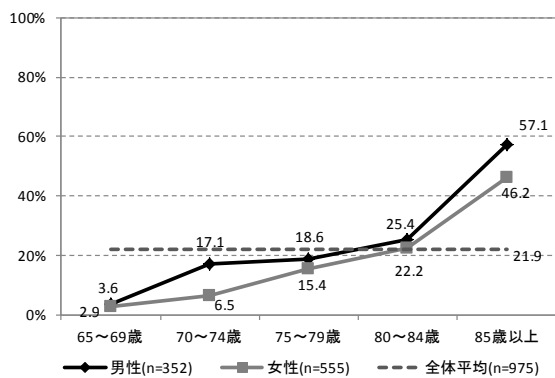
認知機能障害程度の評価結果は、「障害あり」（「軽度の障害」から「最重度の障害」の合計）が、全体で21.9%となっています。男性と女性の比較では、男性が若干「障害あり」が多く、年齢での比較では年齢が上がると「障害あり」が多くなり、障害の程度も重度化が進んでいる状況です。

認定状況での比較では、75歳未満一般高齢者は「障害あり」が2.4%、75歳以上一般高齢者は11.6%ですが、要支援認定者では33.1%、要介護認定者では65.5%まで増加します。

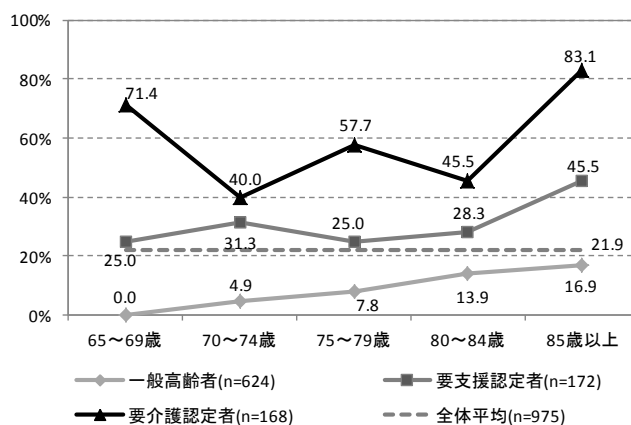
### 《認知機能障害程度》



《認知機能障害程度の該当者割合（性・年齢階級別）》



《認知機能障害程度の該当者割合（認定状況・年齢階級別）》



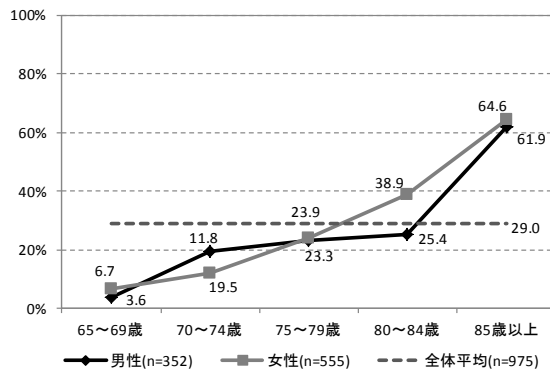


## (9) 虚弱

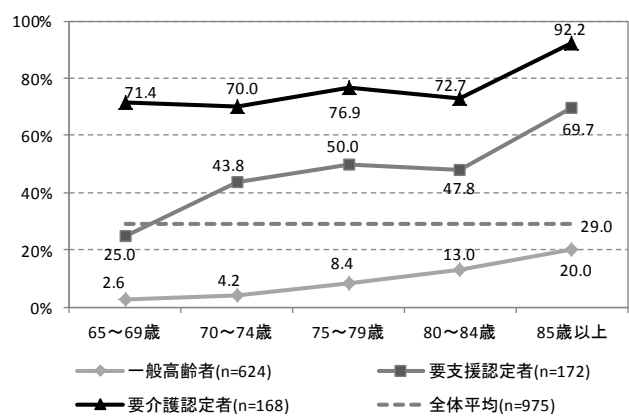
虚弱の評価結果は、全体で 29.0%が該当者となっています。男性女性ともに年齢が上がるにつれて該当者が増加していき、男性は 85 歳以上で急激に該当者が増加している状況です。

認定状況での比較では、要介護認定者、要支援認定者、一般高齢者の順で該当者割合が高くなっており、概ね年齢とともに該当者が多くなっています。

《虚弱の該当者割合（性・年齢階級別）》



《虚弱の該当者割合（認定状況・年齢階級別）》

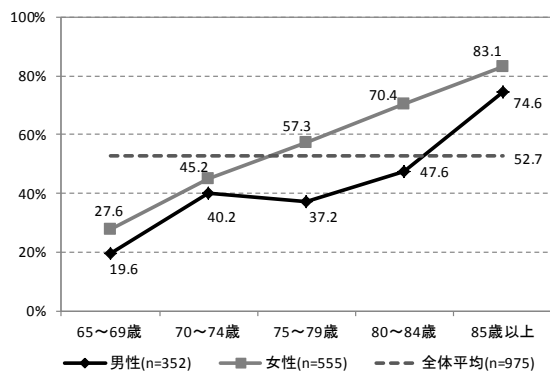


## (10) 二次予防対象者

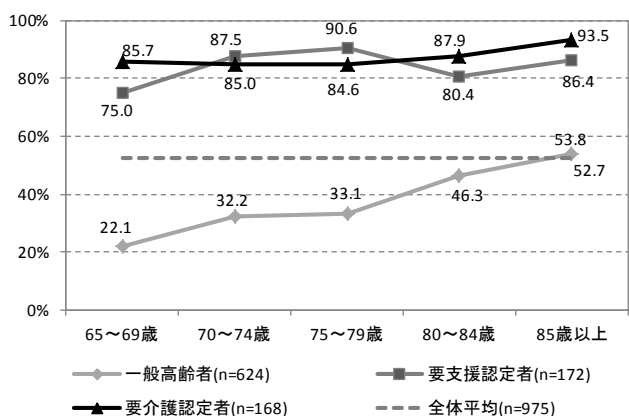
二次予防対象者の評価結果は、全体で 52.7%が該当者となっています。各年齢層において男性よりも女性の該当者が多く、女性は年齢とともに増加、男性は 65~74 歳と 85 歳以上で急激に該当者が増加している状況です。

認定状況での比較では、要介護認定者、要支援認定者の間の差は小さく、一般高齢者との差は大きく開いています。

《二次予防対象者の該当者割合（性・年齢階級別）》



《二次予防対象者の該当者割合（認定状況・年齢階級別）》

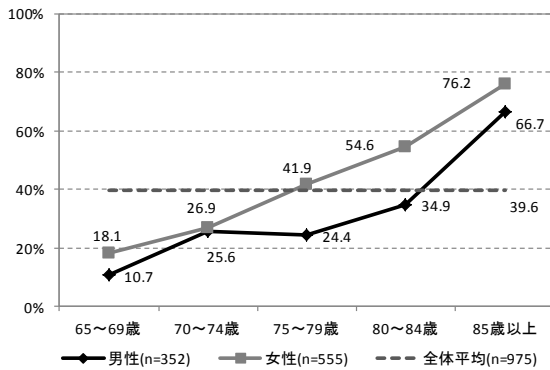


## 2. 手段的日常生活動作(IADL)による評価

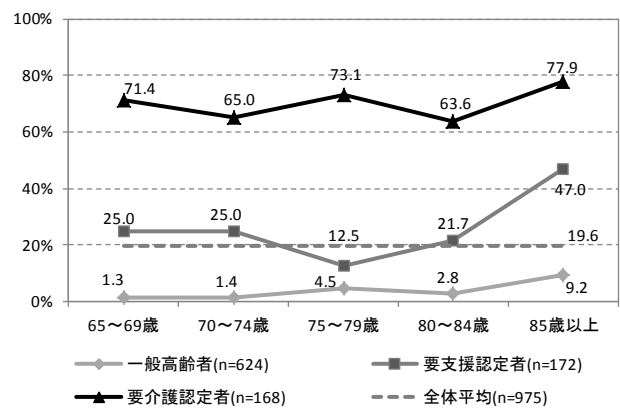
IADL の評価結果は、全体で 39.6%が「低い」となっています。各年齢層において男性よりも女性の方が「低い」の該当者が多く、女性は年齢とともに増加、男性は 85 歳以上で急激に増加しています。

認定状況での比較では、要介護認定者と要支援認定者の間で大きな差があり、要支援認定者と一般高齢者の間では、75～79 歳で差が小さくなりますが、85 歳以上で差が大きくなっています。

《IADL 評価で「低い」の割合（性・年齢階級別）》



《IADL 評価で「低い」の割合（認定状況・年齢階級別）》

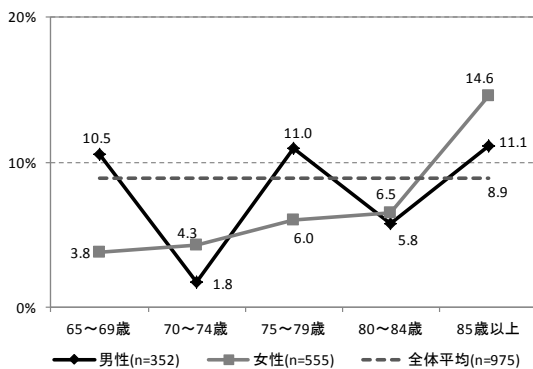


## 3. 日常生活動作(ADL)による自立度評価

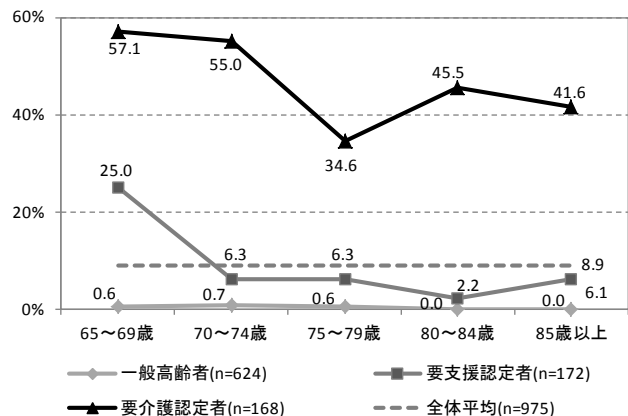
ADL の評価結果は、「起居移動中心介助」と「介助」の合計が全体で 8.9%となっています。女性の「起居移動中心介助」と「介助」の割合は年齢とともにゆるやかに上昇し、85 歳以上で急激に増加しています。

認定状況での比較では、65～69 歳で要介護認定者、要支援認定者、一般高齢者の順で「起居移動中心介助」と「介助」割合が高くなっていますが、70 歳以上では要支援認定者と一般高齢者の差が小さくなっています。

《ADL 評価で「起居移動中心介助」以下の割合（性・年齢階級別）》



《ADL 評価で「起居移動中心介助」以下の割合（認定状況・年齢階級別）》

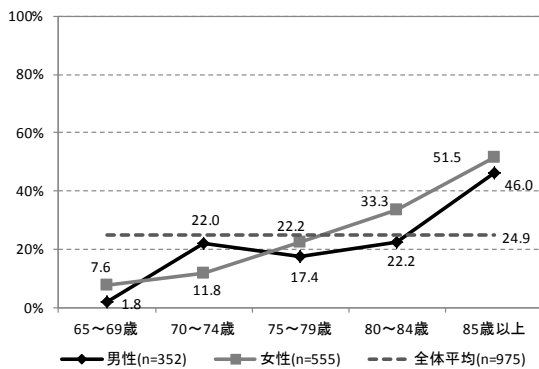


## 4. 知的能動性による評価

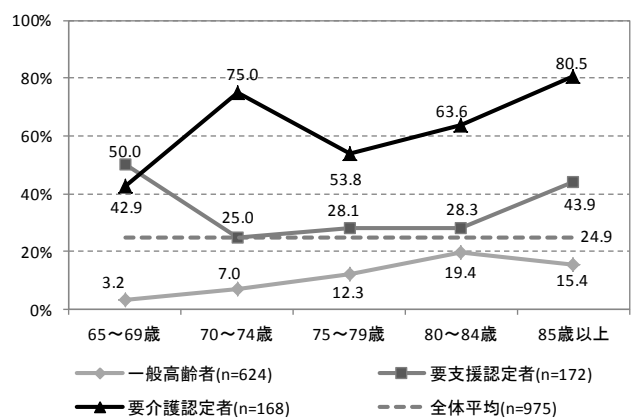
知的能動性の評価結果は、全体で 24.9%が「低い」となっています。女性で「低い」に該当する人は年齢とともに増加し、男性は 70～74 歳と 85 歳以上で急激に増加しています。

認定状況での比較では、65～69 歳で要介護認定者、要支援認定者の差が小さくなっていますが、70 歳以上で「低い」に該当する要介護認定者が増加しています。

《知的能動性評価で「低い」の割合（性・年齢階級別）》



《知的能動性評価で「低い」の割合（認定状況・年齢階級別）》

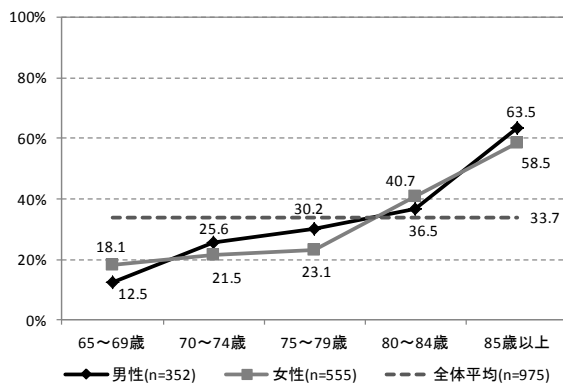


## 5. 社会的役割による評価

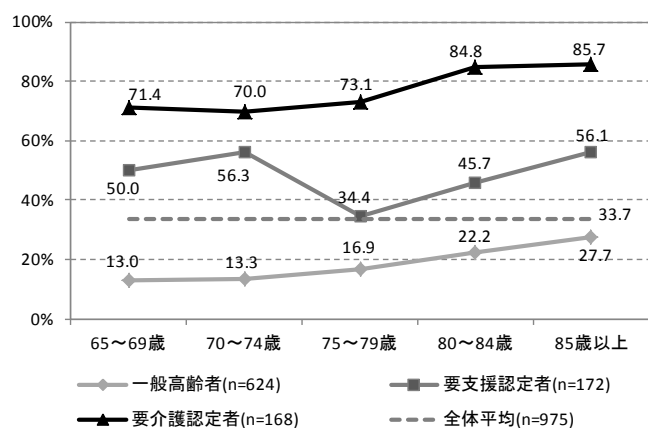
社会的役割の評価結果は、全体で 33.7%が「低い」となっています。男性と女性ともに年齢の上昇とともに「低い」の該当者が増加し、男性は 85 歳以上、女性は 80 歳以上で伸びが急激になります。

認定状況での比較では、要介護認定者、要支援認定者、一般高齢者の順で「低い」の該当者が多くなっています。

《社会的役割評価で「低い」の割合（性・年齢階級別）》



《社会的役割評価で「低い」の割合（認定状況・年齢階級別）》

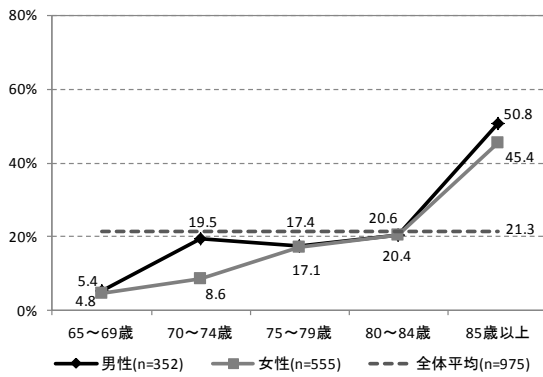


## 6. 老研指標総合評価

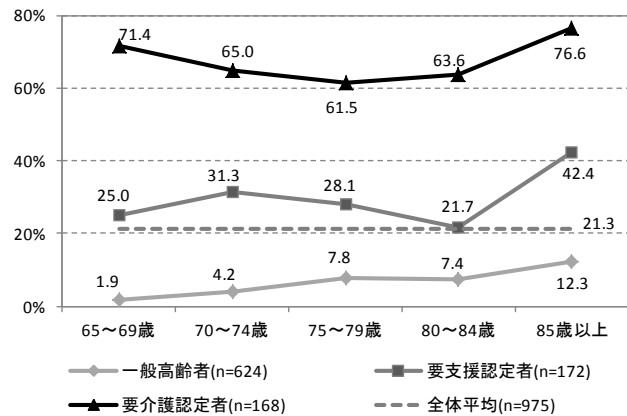
老研指標総合評価の結果は、全体で21.3%が「低い」となっています。男性と女性ともに85歳以上で「低い」の該当者が急激に増加している状況です。

認定状況での比較では、要介護認定者は年齢に関わらず6割以上となっており、要支援認定者、一般高齢者との差が大きくなっています。

《老研指標総合評価で「低い」の割合（性・年齢階級別）》



《老研指標総合評価で「低い」の割合（認定状況・年齢階級別）》



---

## 第4章 市独自設問の集計結果

---

# 1. 介護サービスの満足度について [認定者のみ]

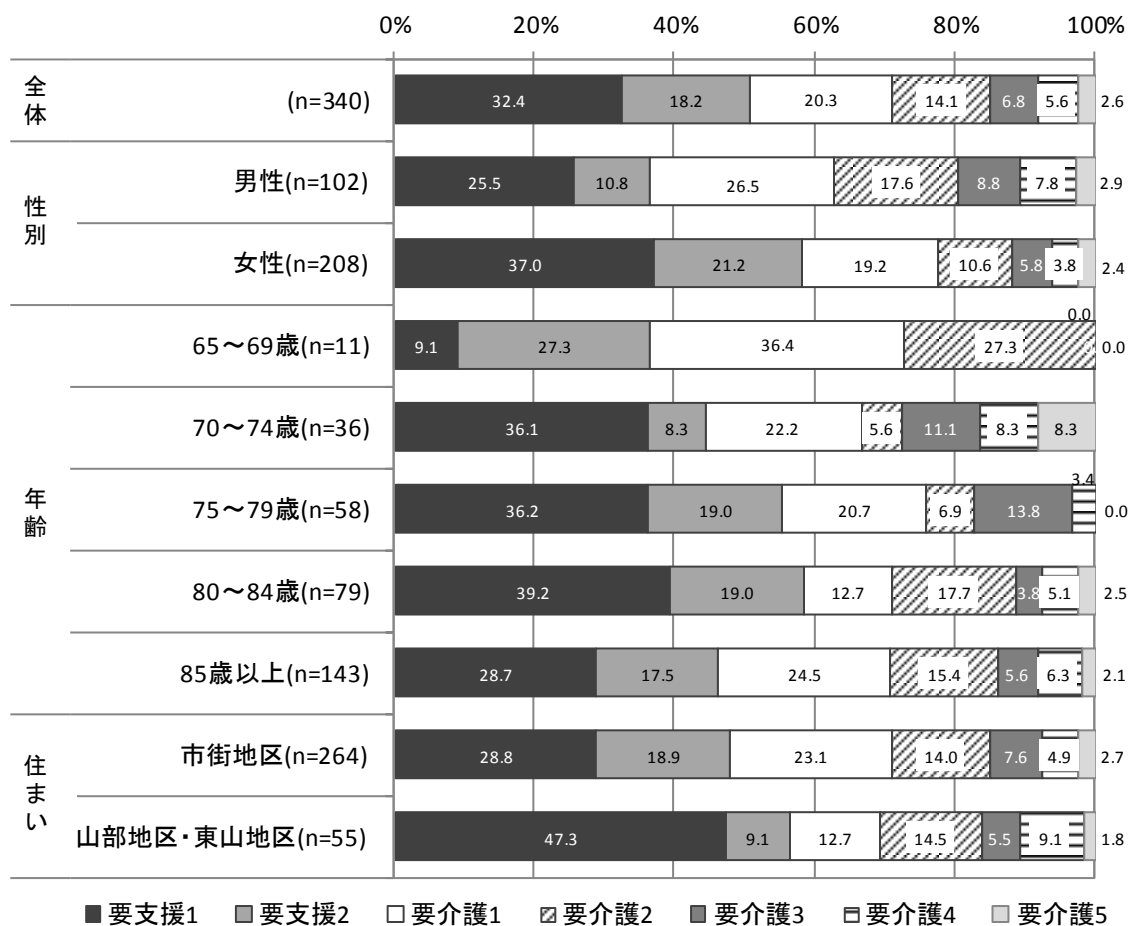
## 1-問1. 現在のあなたの要介護度を教えてください

要支援・要介護の認定状況は、認定を受けていると回答した 340 人全体で見ると「要支援 1」が 32.4%で最も多く、次いで「要介護 1」(20.3%)、「要支援 2」(18.2%)の順となっています。

男性は「要介護 1」が 26.5%で最も多く、女性では「要支援 1」の 37.0%が最も多くなっています。

年齢別では、65～69 歳は「要介護 1」が 36.4%で最も多く、70 歳以上では「要支援 1」の割合が高くなっています。

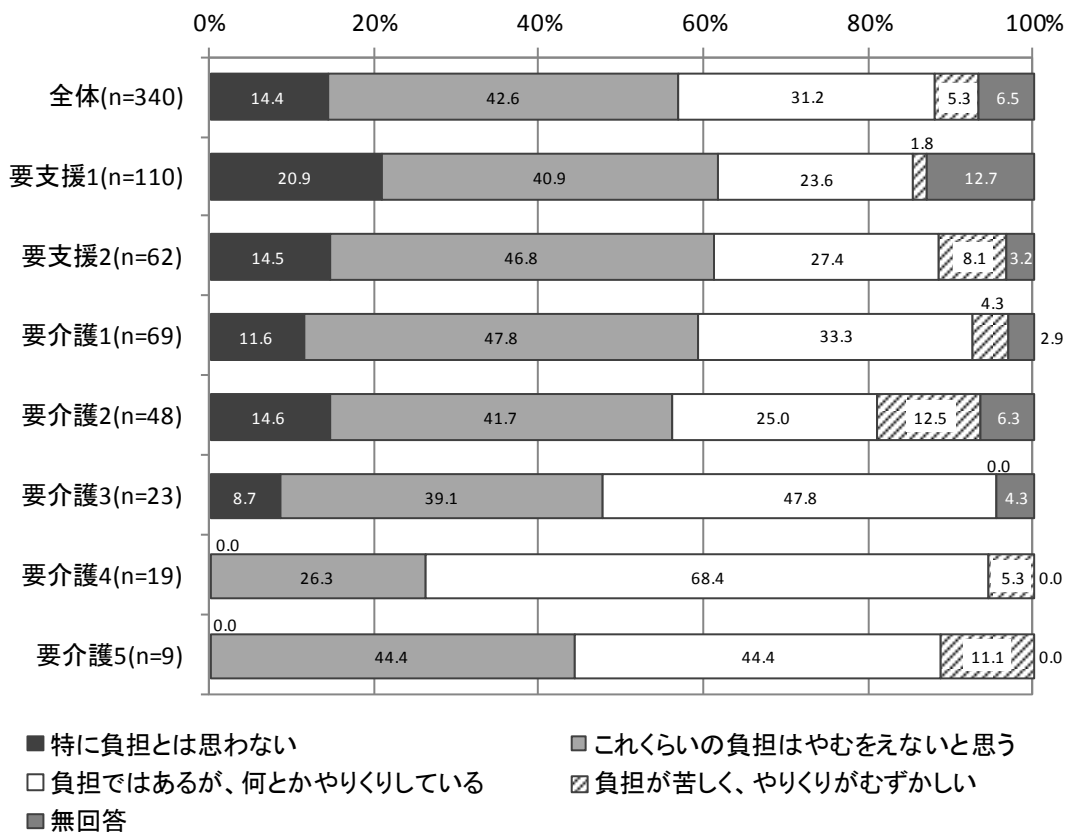
住まい別では、いずれの地区も「要支援 1」が多い状況となっており、山部地区・東山地区では 47.3%で、市街地区と比べて 20 ポイント近く多くなっています。



**1-問2. 現在、支払っている介護保険のサービス利用料の負担(1割負担)について、どのように感じていますか (1つに○をしてください)**

介護保険サービスの自己負担については、要支援1～要介護2までは「これくらいの負担はやむをえないと思う」が最も多く、要介護3以上では「負担ではあるが、何とかやりくりしている」の割合が高くなっています。

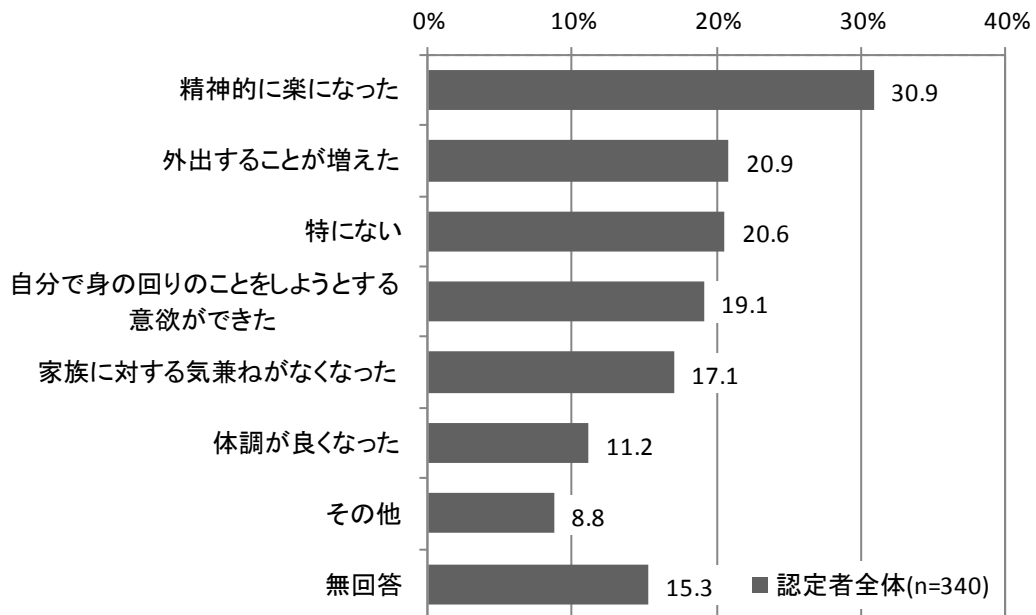
また、要介護2と要介護5では「負担が苦しく、やりくりがむずかしい」が1割以上となっており、他認定者と比べて多くなっています。



**1-問3. あなたが介護サービスを受けて良かったと思うことは、どのようなことですか  
(あてはまるもの全てに○をしてください)**

全体では、「精神的に楽になった」が30.9%で最も多く、次いで「外出することが増えた」(20.9%)が続いている一方、「特にない」が20.6%となっています。

《介護サービスを受けて良かったと思うこと》



《介護サービスを受けて良かったと思うこと》

(単位：%)

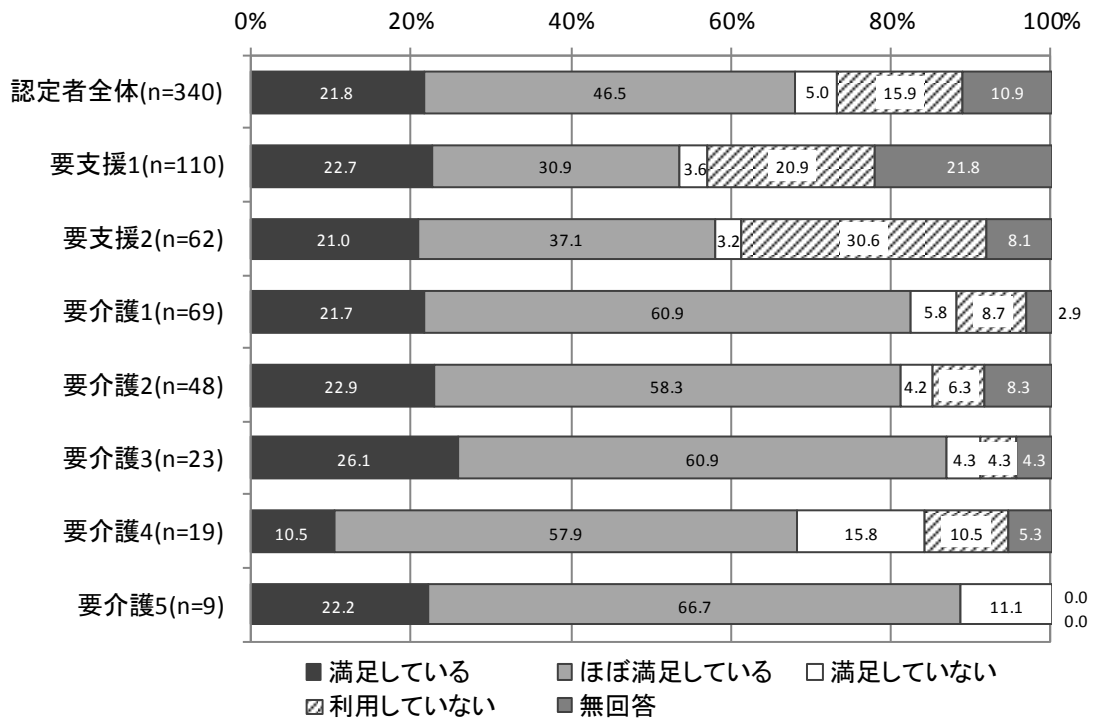
|               | 自分で身の回りのことをしようとする意欲ができた | 精神的に楽になった | 家族に対する気兼ねがなくなった | 体調が良くなった | 外出することが増えた | その他  | 特にない | 無回答  |
|---------------|-------------------------|-----------|-----------------|----------|------------|------|------|------|
| 認定者全体 (n=340) | 19.1                    | 30.9      | 17.1            | 11.2     | 20.9       | 8.8  | 20.6 | 15.3 |
| 要支援 1 (n=110) | 16.4                    | 29.1      | 11.8            | 7.3      | 17.3       | 2.7  | 28.2 | 21.8 |
| 要支援 2 (n=62)  | 25.8                    | 33.9      | 17.7            | 6.5      | 16.1       | 12.9 | 14.5 | 19.4 |
| 要介護 1 (n=69)  | 18.8                    | 34.8      | 15.9            | 11.6     | 29.0       | 13.0 | 14.5 | 8.7  |
| 要介護 2 (n=48)  | 20.8                    | 35.4      | 18.8            | 14.6     | 22.9       | 8.3  | 18.8 | 4.2  |
| 要介護 3 (n=23)  | 17.4                    | 17.4      | 26.1            | 17.4     | 26.1       | 17.4 | 13.0 | 17.4 |
| 要介護 4 (n=19)  | 10.5                    | 15.8      | 31.6            | 15.8     | 15.8       | 10.5 | 36.8 | 15.8 |
| 要介護 5 (n=9)   | 22.2                    | 44.4      | 22.2            | 44.4     | 22.2       | 0.0  | 11.1 | 11.1 |

※網掛け部は各属性ごとに最も割合が高い箇所



**1-問4. 現在受けている介護サービスについて、全体的にみてどのくらい満足していますか(1つに○をしてください)**

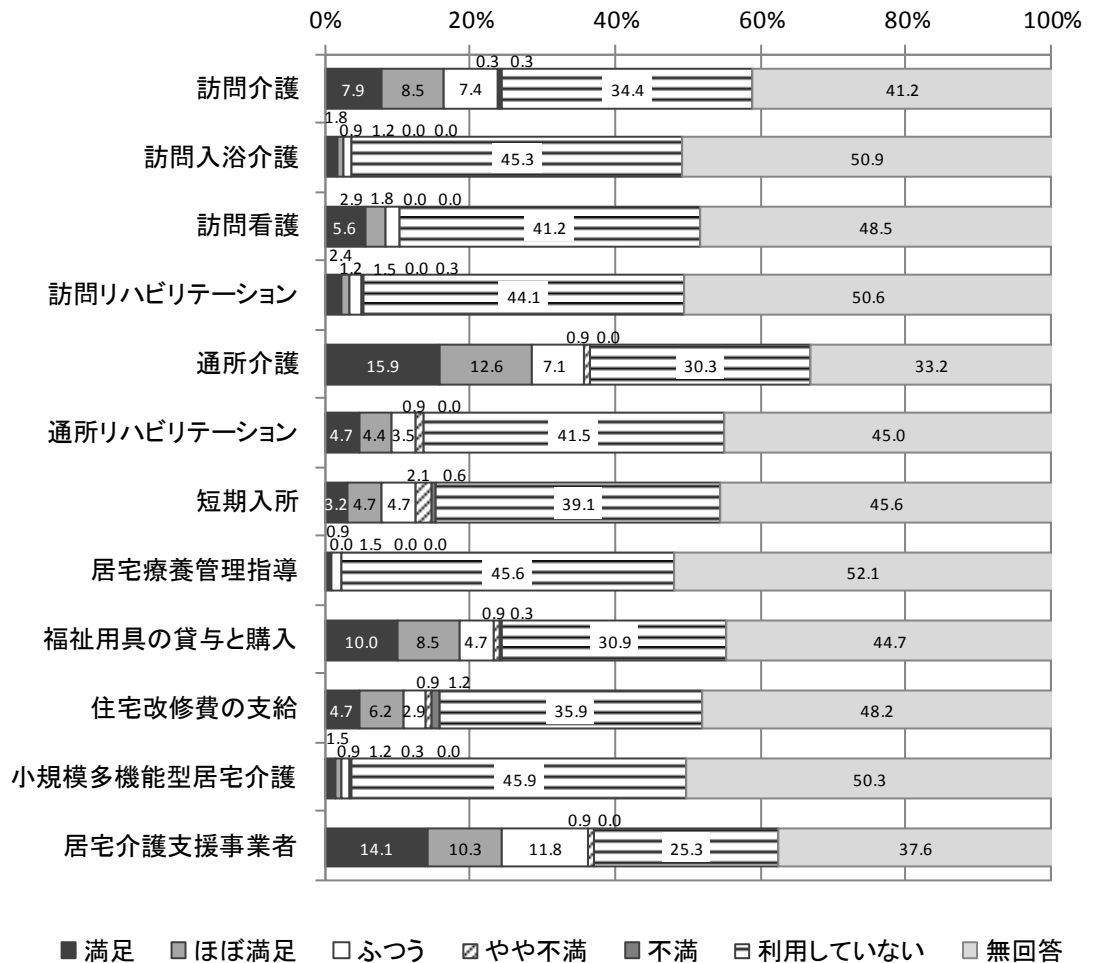
介護サービスの満足度は、いずれの認定度においても「満足している」、「ほぼ満足している」を合わせて5割以上の状況です。要介護1～3と要介護5では「満足している」、「ほぼ満足している」を合わせて8割に達していますが、要介護4は「満足していない」が15.8%で他認定者と比べて多くなっています。



## 1-問5. 現在、利用している介護サービスの満足度についてお答えください

介護サービスの種類別の満足度は、「満足」と「ほぼ満足」の合計では、「通所介護」が28.5%と最も多く、次いで「居宅介護支援事業者」(24.4%)、「福祉用具の貸与と購入」(18.5%)の順となっています。

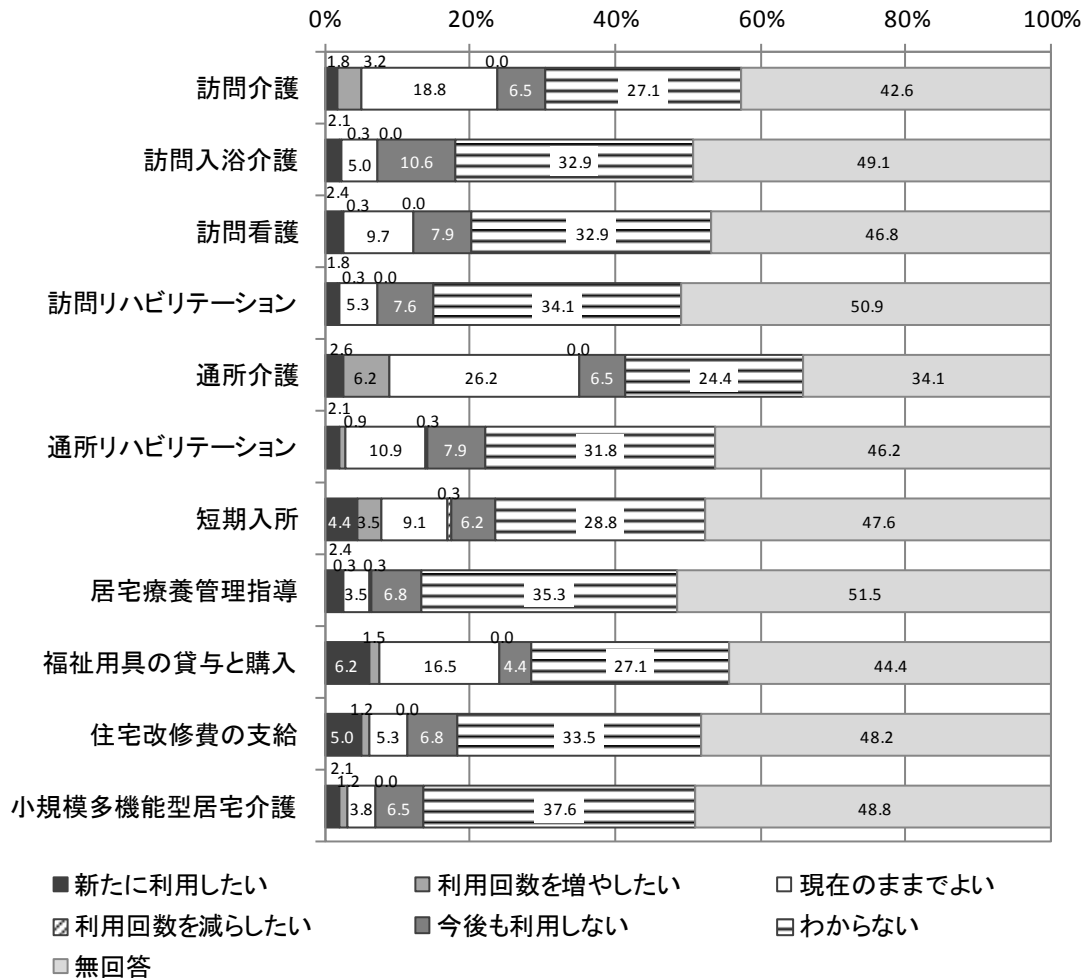
「やや不満」と「不満」の合計では、「短期入所」が2.6%で最も多く、次いで「住宅改修費の支給」(2.1%)、「福祉用具の貸与と購入」(1.2%)と続いています。



## I-問6. 今後の介護サービスの利用意向について

介護サービスの種類別の利用意向は、全体的に「わからない」の割合が高くなっていますが、「新たに利用したい」と「利用回数を増やしたい」を合わせると、「通所介護」(8.8%)、「短期入所」(7.9%)、「福祉用具の貸与と購入」(7.7%)の順となっています。

一方、「今後も利用しない」の割合は、それぞれのサービス別にみると4~10%程度となっています。



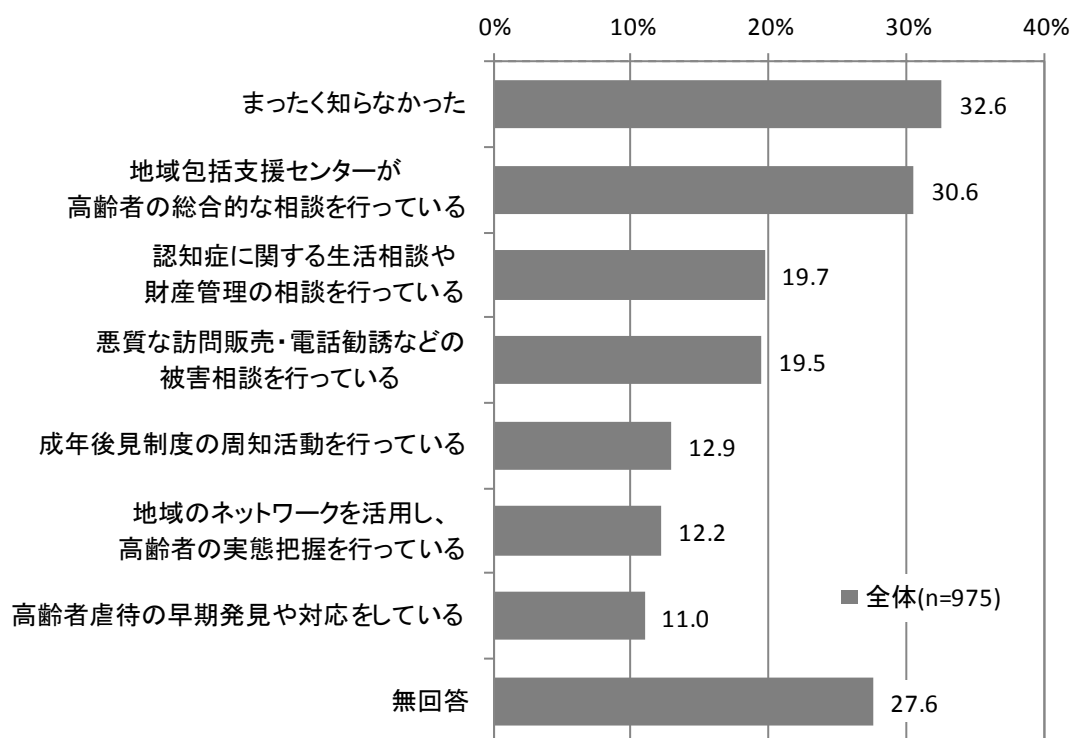
## 2. 地域包括支援センターについて

### J-問1. 地域包括支援センターの役割や機能をご存じですか(いくつでも)

地域包括支援センターの役割や機能の認知度は、「まったく知らなかった」が32.6%で最も多く、次いで「地域包括支援センターが高齢者の総合的な相談を行っている」が30.6%となっています。

年齢別でみると、75歳未満では「地域包括支援センターが高齢者の総合的な相談を行っている」の割合が「まったく知らなかった」よりも多くなっています。

《地域包括支援センターの役割や機能の認知度》



《地域包括支援センターの役割や機能の認知度（属性別）》

（単位：％）

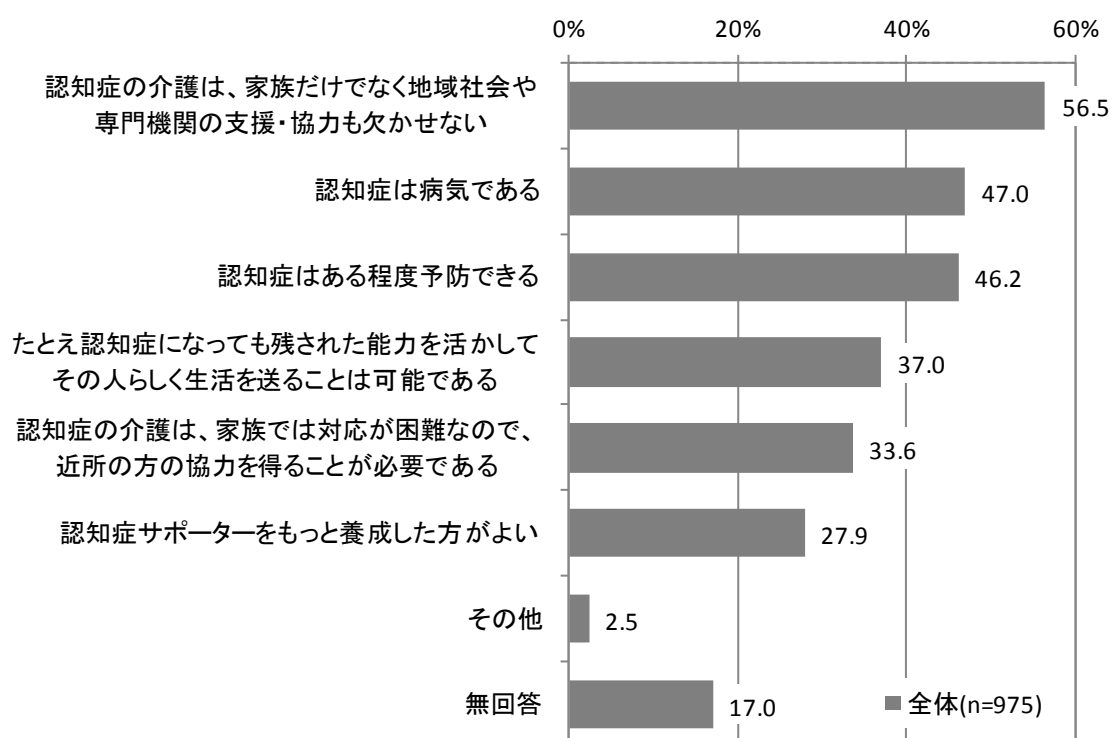
|      |                     | 地域包括支援センターが高齢者の総合的な相談を行っている | 認知症に関する生活相談や財産管理の相談を行っている | 成年後見制度の周知活動を行っている | 高齢者虐待の早期発見や対応をしている | 悪質な訪問販売・電話勧誘などの被害相談を行っている | 地域のネットワークを活用し、高齢者の実態把握を行っている | まったく知らなかった | 無回答  |
|------|---------------------|-----------------------------|---------------------------|-------------------|--------------------|---------------------------|------------------------------|------------|------|
| 全体   | (n=975)             | 30.6                        | 19.7                      | 12.9              | 11.0               | 19.5                      | 12.2                         | 32.6       | 27.6 |
| 性別   | 男性 (n=352)          | 31.8                        | 22.7                      | 15.3              | 13.1               | 20.2                      | 14.5                         | 34.7       | 22.7 |
|      | 女性 (n=555)          | 31.2                        | 18.9                      | 12.3              | 9.7                | 19.8                      | 11.2                         | 32.3       | 28.3 |
| 年齢   | 65～69 歳 (n=165)     | 37.6                        | 24.2                      | 15.8              | 12.1               | 20.6                      | 12.1                         | 30.9       | 19.4 |
|      | 70～74 歳 (n=179)     | 34.6                        | 22.9                      | 16.8              | 16.2               | 26.8                      | 14.5                         | 31.8       | 25.7 |
|      | 75～79 歳 (n=212)     | 30.2                        | 15.6                      | 9.9               | 9.9                | 17.0                      | 12.7                         | 31.1       | 31.1 |
|      | 80～84 歳 (n=187)     | 26.2                        | 19.8                      | 10.7              | 10.7               | 19.8                      | 11.2                         | 33.2       | 30.5 |
|      | 85 歳以上 (n=208)      | 26.9                        | 18.3                      | 13.0              | 7.7                | 15.4                      | 11.1                         | 36.1       | 27.4 |
| 住まい  | 市街地区 (n=789)        | 31.8                        | 20.3                      | 13.8              | 11.5               | 19.8                      | 12.8                         | 33.7       | 25.0 |
|      | 山部地区・東山地区 (n=146)   | 27.4                        | 19.2                      | 10.3              | 8.2                | 20.5                      | 9.6                          | 30.1       | 34.2 |
| 要介護度 | 75 歳未満一般高齢者 (n=297) | 37.0                        | 24.6                      | 17.5              | 15.5               | 25.9                      | 13.8                         | 28.6       | 23.9 |
|      | 75 歳以上一般高齢者 (n=327) | 24.5                        | 16.8                      | 11.9              | 11.0               | 20.2                      | 10.4                         | 28.7       | 37.3 |
|      | 要支援認定者 (n=172)      | 32.0                        | 18.6                      | 9.3               | 8.1                | 16.3                      | 14.0                         | 37.8       | 24.4 |
|      | 要介護認定者 (n=168)      | 30.4                        | 17.9                      | 11.3              | 6.5                | 10.1                      | 11.3                         | 42.9       | 16.7 |

※網掛け部は各属性ごとに最も割合が高い箇所

### 3. 認知症ケアについて

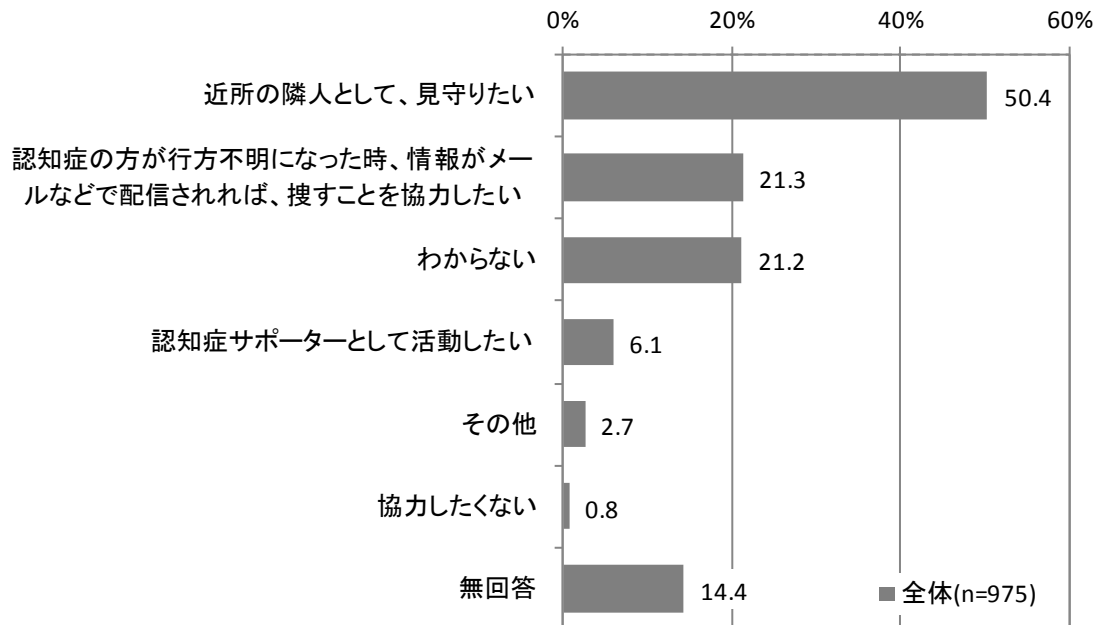
#### K-問1. あなたは、認知症について、どのようなイメージをお持ちですか(いくつでも)

認知症のイメージは、「認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない」が56.5%で最も多く、次いで「認知症は病気である」(47.0%)、「認知症はある程度予防できる」(46.2%)の順となっています。



## K-問2. あなたは認知症高齢者の見守りについて、どのような協力ができますか

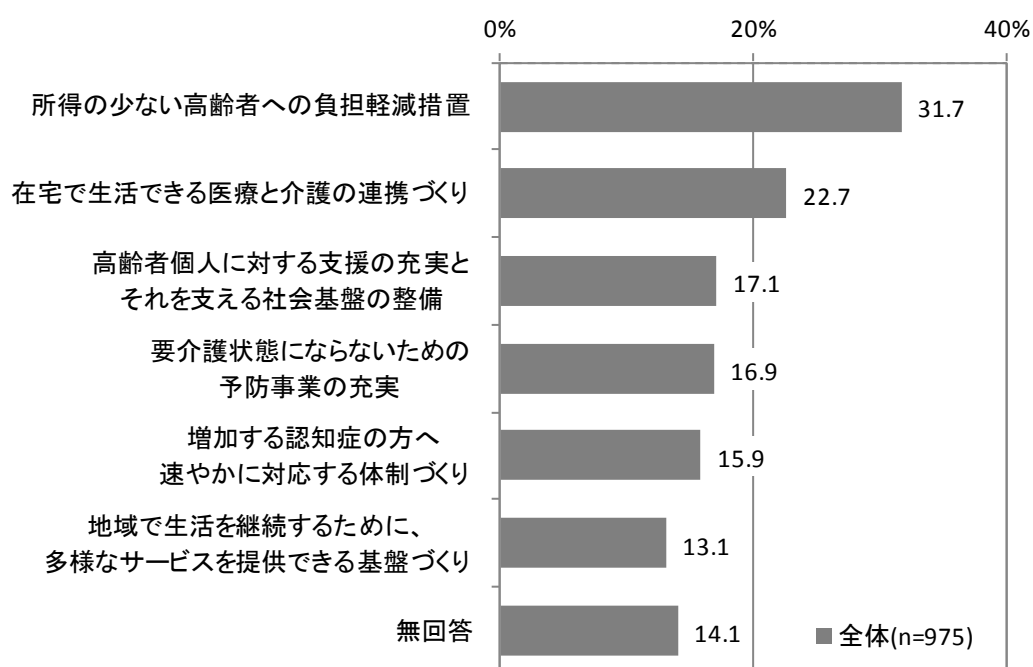
認知症高齢者の見守りについての協力は、「近所の隣人として、見守りたい」が50.4%を占め、次いで「認知症の方が行方不明になった時、情報がメールなどで配信されれば、捜すことを協力したい」（21.3%）、「わからない」（21.2%）と続いています。



## 4. 今後の生活と高齢福祉について

### Ｌ－問１．これからの高齢福祉はどんなことに力を入れたら良いと思いますか

“これから力を入れると良い高齢福祉”の回答は、「所得の少ない高齢者への負担軽減措置」が31.7%で最も多く、次いで「在宅で生活できる医療と介護の連携づくり」(22.7%)、「高齢者個人に対する支援の充実とそれを支える社会基盤の整備」(17.1%)の順となっています。



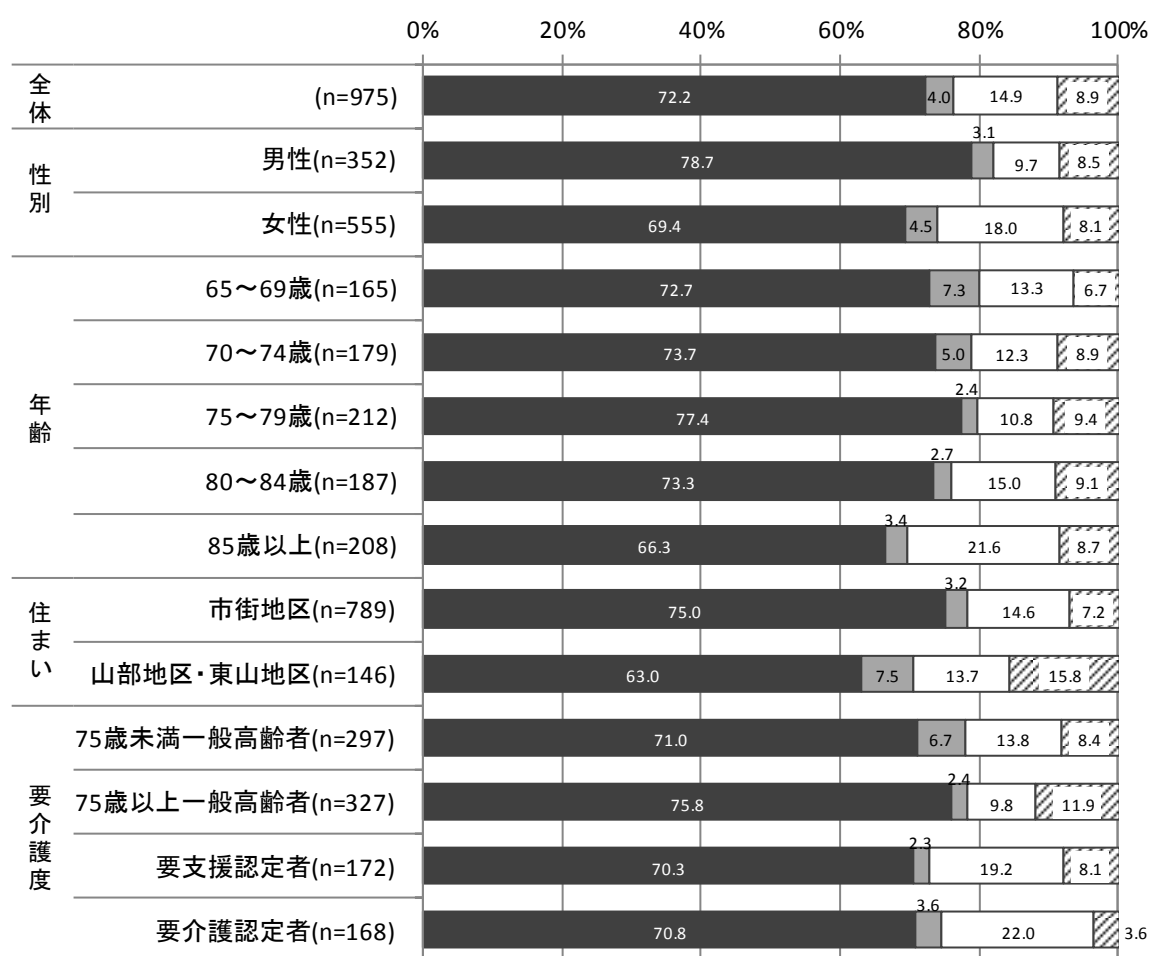


## M-問1. あなたは、今後の生活について、どのようにお考えですか

今後の生活については、「現在の場所で生活を続けたい」が全体・属性別ともに6割以上を占めています。

「現在の場所から別の場所に住み替えて、在宅での生活を続けたい」は、年齢別では65～69歳が7.3%、住まい別では山部地区・東山地区が7.5%となっており、他と比べて多くなっています。

「施設等に入りたい」と回答した人は、年齢別では85歳以上、要介護度別では要介護認定者がそれぞれ21.6%、22.0%となり他と比べて多くなっています。



- 現在の場所で生活を続けたい
- 現在の場所から別の場所に住み替えて、在宅での生活を続けたい
- 施設等に入りたい
- ▨ 無回答

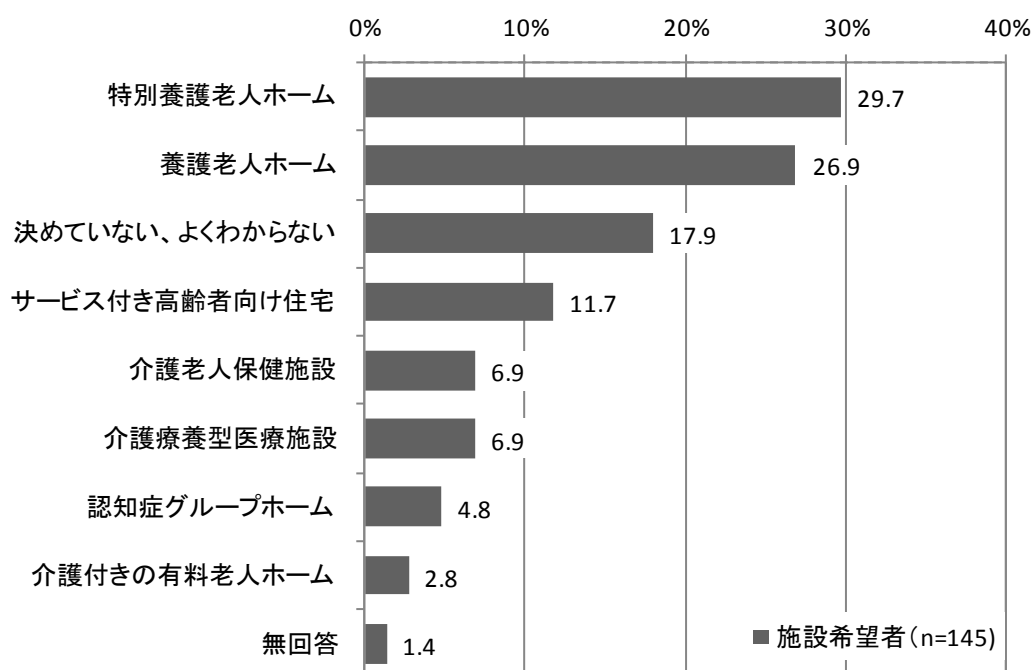
### M-問1-1. (施設等に入りたい人のみ)どのような施設に入りたいですか

今後の生活について「施設等に入りたい」と回答した人が入りたい施設は、「特別養護老人ホーム」が29.7%で最も多く、次いで「養護老人ホーム」(26.9%)、「決めていない、よくわからない」が17.9%と続いています。

年齢別では、85歳以上は「特別養護老人ホーム」が42.2%で最も多くなっていますが、85歳未満では「養護老人ホーム」、「サービス付き高齢者向け住宅」の割合が高くなっています。

住まい別の市街地では「特別養護老人ホーム」が30.4%で最も多く、山部地区・東山地区では「養護老人ホーム」が45.0%で最も多くなっています。

介護度別で最も多いのは、75歳未満一般高齢者は「サービス付き高齢者向け住宅」(29.3%)、75歳以上一般高齢者と要支援認定者は「養護老人ホーム」でそれぞれ31.3%、39.4%、要介護認定者は「特別養護老人ホーム」(48.6%)となっています。



## M-問2. 住み慣れた地域で生活をするために必要なことはどのようなことですか

住み慣れた地域で生活をするために必要なことは、「住み続けられる住まいがある」が74.5%で最も多く、次いで「家族や友人が近くにいる」(63.6%)、「通院がしやすい環境にある」(56.5%)の順で続いています。

属性別にみても、「住み続けられる住まいがある」が最も多く、次いで「家族や友人が近くにいる」が続いている状況です。

